

郵便
報知新聞
第四百五十二号

尾州知多郡龍崎の地は豪商軒を並て
多き中、地名を以て家号と爲る酒造家が在
る。この家に年々禪祭と唱ふる妻あり如何威
故を尋る主人其今う卅年の前其
富岳を登りて絶頂に婦人の禪と書て
たるや、るる女人禁制の霊場、斯る物の有
るやうにこれ我運の啓る時あらん、と持
歸りて、禪の頭も信心もなかり、因てりやう
是より家置盛旺し、財貨ハ富士の岳
多に迄蓄へ、毎歳仲の禪と應
の中央に安置し、海有山珍を、と
参詣の群衆は、郷土に例ありて
一日十金ハ費をとり、豈淫瀆の祭
なるや

龍洲漁人記



大正四年